

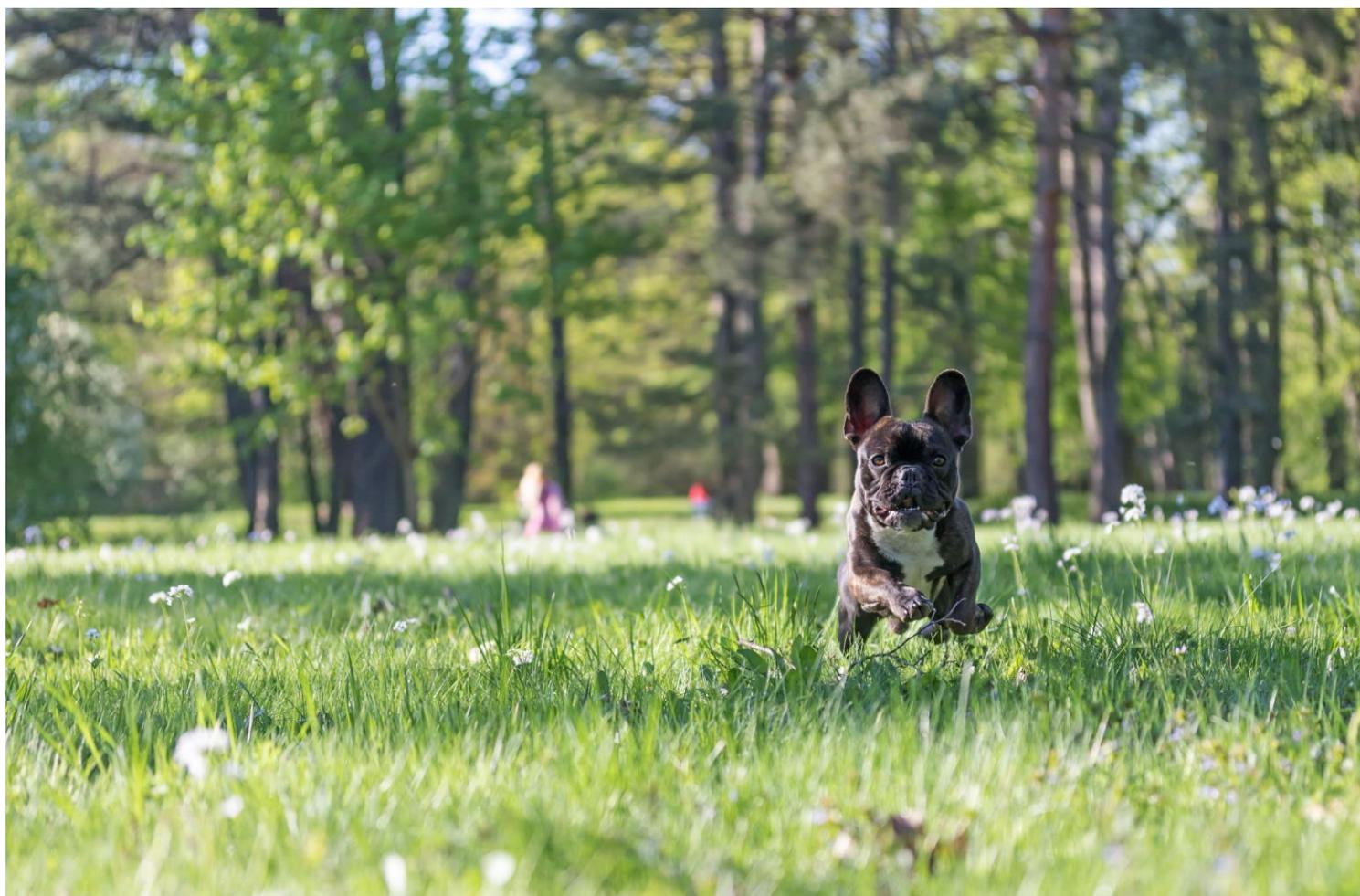
Smile

FREE MAGAZINE

2021 春号

NO.027

2021.4.1 発行



TOPICS NO.027

【特集1】

椎間板ヘルニアの基礎知識 …3

【特集2】

自宅でできるリハビリテーション…9

【wellness salon cocoe からのお知らせ】

・ごはん特集

骨と関節のごはん…20

・絆プロジェクト…26

・information…30

[特集1]

椎間板ヘルニアの
基礎知識

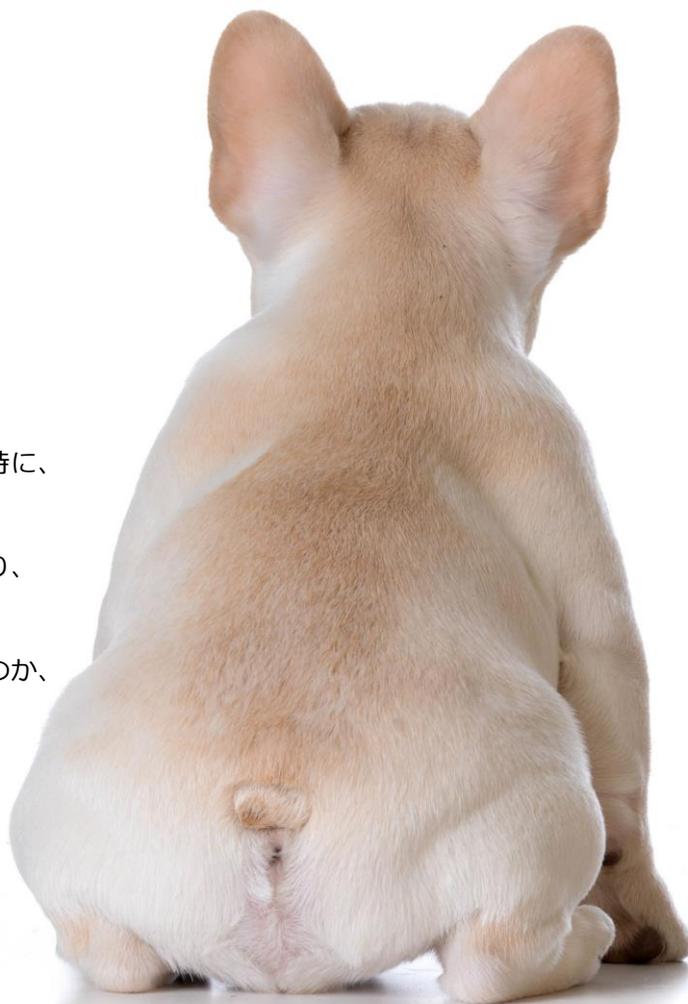
つかんぼん

椎間板ヘルニア

一緒に暮らしているわんちゃんをだっこをする時に、
痛がったりすることはありませんか？

椎間板ヘルニアは、突然腰や首に痛みが生じたり、
後ろ足が動かなくなってしまう病気です。

日頃からどんなことを気にかけてあげれば良いのか、
症状や治療法などを解説します。



椎間板ヘルニアとは？

脊椎（いわゆる背骨）には、「椎間板」と呼ばれるクッションが存在します。

椎間板は、脊椎に重力や衝撃が加わると衝撃を吸収する働きをしています。

椎間板が変性してしまうと、変性した椎間板物質が脊柱管内に突出または脱出しやすくなります。

それにより脊髄や神経根を圧迫し神経症状が生じます。この状態が椎間板ヘルニアです。

脊髄や神経が圧迫されることで、痛みを生じたり後ろ足の麻痺を引き起こしたりします。

椎間板ヘルニアには大きく分けて2タイプあり、

急性発症するハンセンⅠ型と、

徐々に進行するハンセンⅡ型に分類されます。

原因は？

落下や衝突などの衝撃、肥満、老化などもヘルニアの1つの原因です。

日々の生活でなるべく腰に負担のかからないようにしてあげることが大切です。

●好発品種

ミニチュア・ダックスフンド、トイ・プードル、チワワ、フレンチ・ブルドッグ、ペキニーズ、ビーグル、ウェルシュコーギーなど

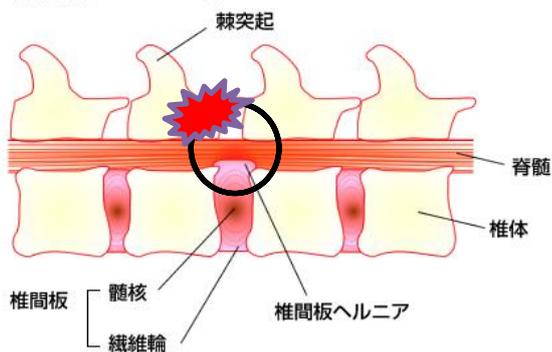
●好発年齢

4～13歳まで幅広く発症し、特に10歳齢に多く発症しているという報告があります。

分類によっても好発年齢が異なります。

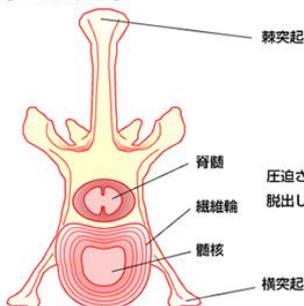
【椎間板ってどこ？どんな形？】

『椎間板ヘルニア』

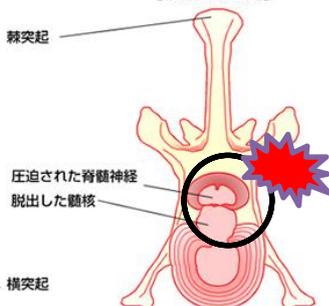


『椎間板ヘルニア』

【正常な腰椎】



【髓核の逸脱】



【ヘルニアの分類】

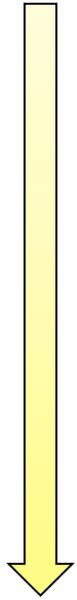
ハンセンⅠ型

線維輪が破れて髓核が脱出する型で、通常は比較的若齢で、急性に発症します。軟骨異栄養性犬種とよばれる、軟骨に変性が起きやすいミニチュアダックスフンドなどの犬種で多く見られます。

ハンセンⅡ型

線維輪が数か月～数年かけて膨隆して突出する型で、非軟骨異栄養性犬種で多く見られます。

どんな症状が出るの？



軽度

- ✓ 背中や首を押すと痛む
- ✓ 抱っこするとキャンと鳴く

中程度

- ✓ 足元がおぼつかない、ふらつく

重度

- ✓ 4本足で立てない
- ✓ 後ろ足をひきずって歩く
- ✓ 排尿ができない
- ✓ 後ろ足の感覚が完全になくなる



重症度の分類(グレード分類)

頚のヘルニア

Grade 1

初発の頚部痛で神経異常なし。

Grade 2

再発性の頚部痛で神経異常なし。

Grade 3

神経異常を伴う頚部痛。

重症度の分類(グレード分類)

腰のヘルニア

Grade 1

歩行は正常だが背部痛がある。

Grade 2

ふらつきながら歩行する。

もしくは再発性の頚部痛。

Grade 3

歩行ができなくなる。

Grade 4

後ろ足は完全に麻痺し

自力での排尿ができなくなる。

Grade 5

上記症状に加え、

深部痛覚がなくなる。

問診

いつごろから症状が出始めましたか？
思い当たるきっかけはありますか？

診断

①

神経学的検査

この検査は、どこの神経（脳・脊髄・末梢神経）が異常をきたしているのか、おおよその位置の特定や神経障害の程度を客観的に評価するために行う検査です。

②

レントゲン検査

①で行った検査や、ご家族様のお話をもとに撮影する部位を決めます。
神経的な異常は、椎間板ヘルニアだけでなく、脊椎の骨折や炎症、骨自体の変形や脱臼でも生じるため、
まずはレントゲン撮影で大きな異常がないかを確認します。
椎間板や神経はレントゲンでは描出できないため、
この検査のみで椎間板ヘルニアかどうか確定診断することは困難です。

③

CT・MRI検査(麻酔下検査)

脊髄や椎間板の変性の程度が最もわかる検査がMRIです。また、石灰化した椎間板や、骨折などをより細かく描出するのに優れているのはCT検査で、併用することでより一層詳細な情報を得ることが可能になります。
ただし、動物はじっとしていることが困難であるため、
CT・MRI検査には麻酔が必要です。



治療

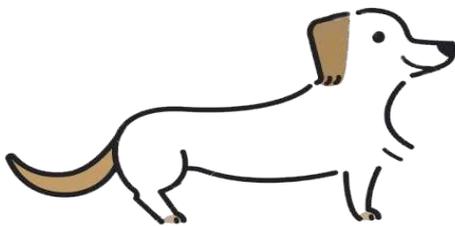
脊髄の損傷が軽度な場合

①運動制限(ケージレスト)

脊髄のさらなるダメージを防ぐため、また突出した椎間板物質が線維化し安定化するまでの間、ケージの中で過ごしてもらいます。お散歩はもちろん、お食事やトイレもなるべく歩かないように生活します。理想的には1~2か月、と言われていますが、症状と動物たちのストレスも加味しながら期間は検討します。

②内服薬

通常①の治療と併用します。消炎鎮痛剤を使用して、炎症や痛みを軽減します。痛みが引いたからと言って運動してはいけません！安静にすることが最も大切です。



！気をつけるべき病

脊髄の損傷が重度な場合

外科手術

脊椎の一部を削って窓をあけ、脊髄を圧迫している椎間板物質を取り除きます。

脊髄への圧迫が解除されると、痛みや麻痺の原因を取り除くこととなりますが、すでに損傷している脊髄神経自体を回復することはできないので、手術の後に歩行ができるようになるかどうかは、術前の脊髄損傷の程度や術後のリハビリに大きく左右されます。

頸部の椎間板ヘルニアに対しては、腹側造窓術（ベントラルスロット）。胸腰部の椎間板ヘルニアに対しては、片側椎弓切除術（ヘミラミネクトミー）という術式を用いることが一般的です。

【毎日の生活で気を付けてあげられること】

- ✓ 体重管理をして、肥満にならないようにする
- ✓ 階段や段差の上り下りなどを避ける
- ✓ フローリングなどの滑りやすい環境をさける
- ✓ 足の裏の毛を短くカットする
- ✓ ジャンプや過度な運動をさせない

進行性脊髄軟化症

重度の脊髄損傷に伴って生じる進行性脊髄軟化症は、発症してしまうと治療はなく、1週間以内に死に至る非常に恐ろしい病気です。重症度がGrade 5である椎間板ヘルニアの約5~10%で発症すると言われています。

椎間板ヘルニアにより圧迫を受けた脊髄が損傷壊死し、その部位からどんどん前後方向に向かって脊髄の壊死が進んでいきます。

最終的に、頸部まで脊髄損傷が広がると、呼吸筋に麻痺が起こり呼吸困難で命を落とします。

この進行性脊髄軟化症は、事前に予知することは難しく、手術しても治らないため、軟化症が疑わしい場合には治療を注意深く選択する必要があります。



[特集2]

自宅でできる
リハビリテーション



自宅でできる リハビリテーション

椎間板ヘルニアをはじめとした整形外科疾患など、治療の一環としてご自宅でリハビリテーションをご家族様にお願いすることは獣医療ではとても多いです。わが子が患ってしまったとき、おうちでしてあげられるリハビリテーションをご紹介します！

そもそもリハビリテーションってどんなもの??

動物医療分野では

「整形外科疾患、神経学的疾患、外科手術後、あるいは内科学的重症疾患などで委縮した筋肉や拘縮した関節の機能を改善して運動機能を回復させ、伴侶動物としての活動を取り戻すためのさまざまなアプローチ」のことをリハビリテーションといいます。

(出典：「小動物のリハビリテーション入門」インターズー)

少し難しい言葉ですが簡単にいうと、怪我や体調不良で手術したり寝こんでいた期間で、弱ったり固まってしまった筋肉や関節をもとの状態またはそれに近い状態まで取り戻すことです。

もちろん重症度や年齢、性格などの素因で完璧に「元の状態」に戻ることが難しいことも多くありますが、一番過ごす時間が長いご家族様にとってその子が、またその子自身が「どの状態まで戻りたいか」を考えながらメニューを考えていきます。

メニューの中には特殊な器具を使用したり専用施設に赴かないとできない特別なものもありますが、

今回はご自宅の環境・ご家族様の手で行っていただけるけれど、比較的どんな状態の子にも行っていただくとても大切な基礎のメニューを2号に渡ってご紹介していきます♪

自宅環境の整備

今回特集する3つの疾患に共通するだけでなく、どんなリハビリテーションをしている子にも1番大切なのはご自宅の「環境整備」です。

例えば退院してすぐの少し筋力が落ちている子にとって、普段通りの段差を越えることが困難なことも。特に犬は猫のように関節や筋肉が柔らかくないため、3次元の動き（ジャンプや階段昇降、後肢立ちなど）で関節にかかる負担は健常な子であってもとても大きいです。

特に今回特集している3つの疾患で気を付けてあげたいことは、

3次元の動き（上方向の動き）：ジャンプ、階段・段差の上り下り、後肢のみで立つ・歩く

すべること（フローリングなどの滑りやすい素材の床や絨毯の使用）

つまづく、転ぶなどの突発的に反射しなければいけない動作の要因を作ること

（床が散らかっている、活動範囲にモノが多い）

などです。

人間が生活するフロアとは別に、その子用の十分なスペースを作ってあげてその中で生活させるのもよいですが、スペースが狭いと運動不足になってしまうことも考えられます。

リハビリテーションは普通の生活に戻ることもゴールなので、ご自宅の今まで生活していた場所を、ご家族と共存できる限り変えてあげてをおすすめすることが多いです。

特に当院でアドバイスすることが多い環境

- ソファへ飛び乗らないように負担にならない高さの昇降用段差を付けてあげる
- 床の素材を滑らないものに変更する
（100円ショップなどで売っている組み合わせられる柔らかい滑り止めマットをよくおすすめしています）
- 飛び越えられるような高さの物や、つまづくような物を床に置かない
- びっくりするものを使用するときは配慮する（掃除ロボットや大きな音のする家電の使用など）
- 食事やおもちゃなどに反応して後肢立ちしてしまう場合には、与え方を工夫する、
キッチンに入らないようペット用扉を設置するなど「後肢立ちするシチュエーション」考えて防止する
- 他の動物と取っ組み合いやじゃれあいにならないよう、同居の動物と離して生活させる、
散歩はあまり他の動物がいないコースや時間にする
- 柔らかすぎる場所を人の目のないときに歩かせないように、ベッドや布団がある部屋で自由にさせないなど

退院時にご自宅の環境はご相談させていただくことが多いです。

ご不安なことがありましたらぜひ担当獣医師・看護師におっしゃってください。

はじめる前に！ 準備とウォーミングアップ

ご自宅環境を整えたところでさっそくリハビリテーションをしていきましょう！
リハビリテーションは基本的に「運動」です。
わたしたちも運動する前に着替えたり準備体操をしてから行いますよね。
同じように動物のリハビリテーションもまずは準備を行います。

マッサージ ホットパック

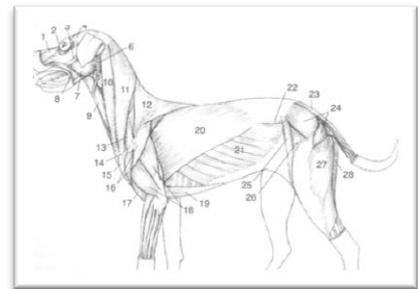
まずは準備運動として全身のマッサージを行っていきます。

【方法】

最初に湯たんぽで全身をなでてあげる。（マストではないですが身体を温めてリラックスさせてあげるために、お風呂の温度くらいに温めた湯たんぽの使用を推奨しています）
全身が温まったら、てのひらでつま先から全身をくまなく少し強めになでたり、足をにぎってあげる。

画像の大きな筋肉たちをこの辺にあるかな？と
想像しながらほぐしてあげてください。

（出典：「犬の解剖 カラーリングアトラス」日本獣医解剖学会監修）



【目安時間】5分～10分程度

【Point】コミュニケーションをとりながらリラックスさせてあげるように

怪我したのは後肢なのに、なんで肩や前肢のマッサージも必要なの？と聞かれることがあります。
例えば右後肢を怪我した子であれば、右後肢はこれからリハビリテーションを行う準備体操としてマッサージをします。
そして、普段右後肢をかばって生活している左後肢や前肢、またそれらを支えている腰や肩や背中なども普段以上の活躍でお疲れです。
凝り固まった筋肉をほぐして、血行をよくしてあげるために全身くまなくマッサージをしてあげます。
お膝の上など、本人がリラックスできる場所で行います。
また、湯たんぽの使用は術後すぐなど、腫れや熱感がある「急性期」には禁忌となります。そういった時期は、逆に患部の炎症を改善させるため保冷剤を使用して「アイシング（アイスパック）」を行います。

【方法】直に身体に触れないようタオルなどを巻いた保冷剤を患部にのみ当てひもやタオルなどで固定する。
その他の部位は湯たんぽにてマッサージを行う。

【目安時間】マッサージを行っている間の5分～10分程度

ただし、退院後のご自宅でリハビリテーションをしていただく時期には大抵の場合急性期は過ぎていきますので、特別な指示がない限りは温めていただいて問題ありません。
ご心配な場合は念のため担当獣医師・看護師にご確認ください。

では準備が終わったところで、
本題のリハビリテーションに移っていきましょう！
まずは、症例別のリハビリテーションの目的をご説明します。

●：関節可動域改善運動

■：筋肉増強運動

★：神経回復運動

前十字靭帯損傷・膝蓋骨脱臼

【目的】

痛みや固定により膝関節を動かさず、

- 固まってしまった膝周りの関節を動かしやすいにする。
- 使われず衰えてしまった筋肉を増やす。

■：筋肉増強運動

基本的にリハビリテーションが必要な症例では、筋肉増強運動が必要になってくるものがほとんどです。

身体をいつも通りに動かせないということは、動かない・動かせない筋肉は衰えています。

元通りに動けるようになるために、筋力を最低限戻すというのはとても大切で必要なことです。

●：関節可動域改善運動

特に関節の疾患で多いのが、普段なら曲げることができる関節が曲げられない・少ししか曲がらないなど、可動域の縮小です。

普段通りに曲がらないと、つまずいてしまったり他の関節や筋肉に負担がかかるなどの弊害が出てきます。

特に痛みで関節を曲げることができなくなっていた子の場合、術後痛みの要因がなくなっても痛かった記憶がある分、痛みがないことを本人が自覚するまでとても嫌がります。

ただし痛みの問題を乗り越え筋力が戻るとすんなり改善してくれる子も多い運動です。

★：神経回復運動

数あるリハビリテーションの中で最も根気のいる運動です。

手を貸してもともととしていた動きをさせてあげ、傷ついた神経に感覚を思い出してもらいます。

神経損傷の重症度によっても経過は変わってきます。

椎間板ヘルニア

【目的】

- ★圧迫により滞ってしまっている神経を刺激し、もとの動きを思い出させてあげる。
- ある程度後肢の麻痺が改善し自力で動けるようになったら痛みや神経異常により使われず衰えてしまった筋肉を増やす。

起立補助

(自力で立てない子の場合)

【方法】

手やタオルなどを使用して身体（後肢麻痺であれば腰腹部のことが多い）を支え、四肢で立った状態を作ってください。

最初は10秒から、20秒、30秒、1分、5分…のように徐々に保つ時間を増やし、ある程度支えがある状態で保てるようになったら、支えをなくし同様に時間を増やしていきます。

「立つ」以外に何もしないので、飽きてしまう子には、おやつやおもちゃを見せて気を散らしてもOK。

【Point】

滑らない場所（おすすめはヨガマットの上）で行う。

ナックリング（つま先や、足の甲を床に着けてしまう）は都度修正してしっかりパッド（肉球）を床に着けて立った状態にさせる。



ひっこめ反射

【方法】 麻痺のある肢の指間を少しつまんで、嫌がって自力で足をひっこめさせる。

【回数】 各肢15～30回ずつ程度

【姿勢】 立てる子は起立位でOK、立てない子は横にした方がやりやすい。

【Point】 指の面でつまむのではなく、少し痛い指先の点でつまむイメージで行う。



歩行補助

(自力で立てる子の場合)

【方法】

立てない子同様にタオルなどで少し身体を補助してあげながら自由に歩かせます。

ただし、ナックリングしてしまったり、足の方向がおかしいなどの普通の歩行と違う様子があれば1歩ごとに修正してあげます。

また、スムーズに歩行が可能になってきたら積み木などの障害物を床に置き、しっかりとまたぐ練習などもよいです。



猫のリハビリテーションについて

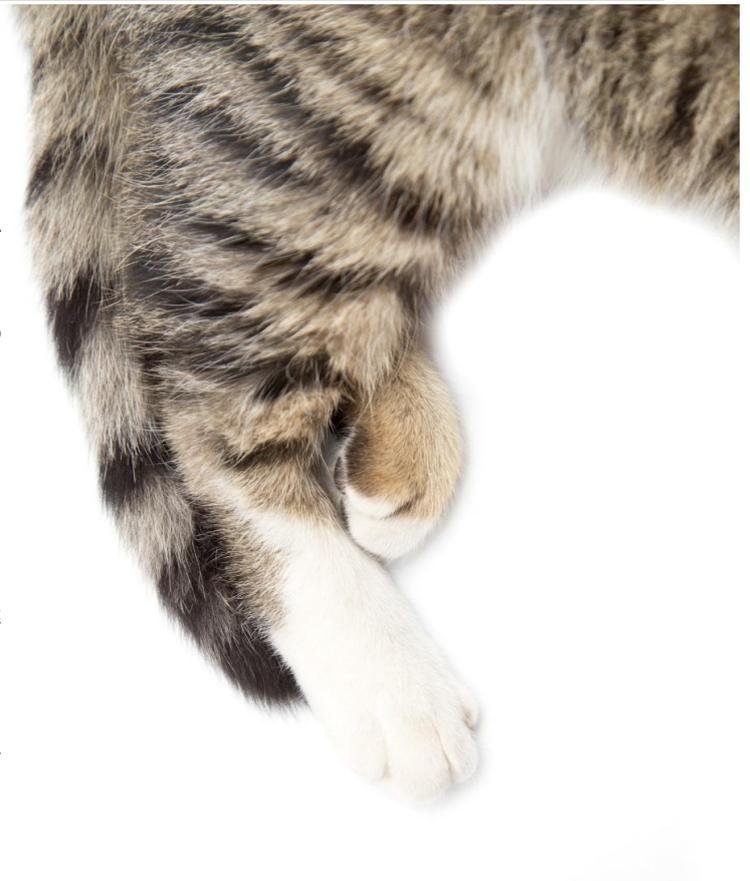
犬ほど多くはないですが、同じように猫にもリハビリテーションが必要な場合もあります。

ただし、猫は犬よりも関節や筋肉がしなやかで柔らかく、また犬のように体を触られることに抵抗のない子がそれほど多くないのでリハビリテーション自体にストレスを感じやすいです。

そのためご自宅では「ジャンプしないようキャットタワーをしまう」「床が滑らないようマットを変える」

「取っ組み合いして遊ばないよう同居の猫と部屋を分ける」など環境整備のみをお願いすることが多いです。

絶対にできないということはありませんが、犬でも猫でも「その子の性格を考えてメニューを考える」ことが大切です。



関節可動域改善運動

屈曲伸展運動

【方法】 患部の関節（膝蓋骨脱臼や前十字靭帯損傷であれば膝関節）
を作っている骨と骨を持って、曲げ伸ばしする。

膝関節の場合：大腿骨と脛骨（図参照）

（出典：「犬の解剖 カラーリングアトラス」日本獣医解剖学会監修）

体幹に近い方の骨を支点とし、写真のように手の向きを
気を付けながら屈曲（まげる）伸展（伸ばす）を繰り返す。

【体勢】 中・大型犬であれば起立位でも可能だが、
基本的には横にして行う。

【回数】 各関節ゆっくりと10往復、速く10往復

【Piont】 痛がるようであれば、強く曲げなくてもよい。

【応用編】 膝関節・股関節疾患の子では

おすわり→立つ→おすわり→立つ

という動作を繰り返しても同じ動きになる。

肘関節・肩関節疾患の子でも同様に、

伏せ→おすわり→伏せ→おすわりという動作でもOK。



筋力増強運動

▶ 後肢ダンス

【方法】 上半身または前肢のみを支えてあげ、
歩かせる（支えのある後肢歩行）

【時間】 数m～数十m程度の距離を5～10回

【Point】 腰に負荷がかかりやすい犬種や椎間板ヘルニアの子は
腰から上をしっかり支えてあげる。
負荷が強いので歩く方向はまっすぐのみ。



▶ 不安定な場所の歩行

【方法】 柔らかい布団の上など不安定な場所で過ごしてもらう。
絶対に目を離さないで、あまりにも暴れてしまうなど危険な動きをするようであれば中止する。

【時間】 5分～20分程度

【Point】 不安定な場所で動くことで体幹の筋肉が鍛えられるが、
不安定なので突発的な動きが必要なことも。
あまり暴れてしまうようであれば中止する。

リハビリが終わったら…

準備運動があるということは、整理運動もあります。

クールダウンはリハビリテーションで動かした筋肉をほぐすとともに、まだ本調子ではない身体をリラックスさせ、疲労を残さないよう、痛みを再発させないようにする目的があります。

【方法】全身のマッサージを行う。（湯たんぽはなしでよい）

マッサージの後、患部のアイシングを行う。

それぞれ時間や方法は準備運動の時と同様。

いかがでしょうか？

リハビリテーションは日々の積み重ねがとても大切な治療です。

大切なご家族のために1日1回～2回程度スキンシップをかねてやってみてくださいね♪

今回ご紹介したのはあくまでもベーシックな1例です。

その子その子の病態に合わせて退院時に他のメニューをご説明することもあります。

まずは担当の獣医師・看護師と相談していきましょう！！

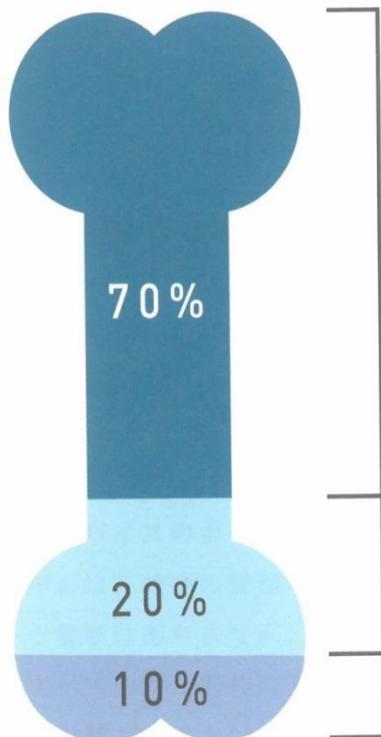




骨や関節の病気では、
内臓に問題がない限り食事の給与方法は通常と同じで問題ありませんが、
骨と関節の主な病気を把握し、それぞれにあった管理のポイントを
日々の食事に役立てましょう！

まずは **骨** と **関節** についておさらいをしましょう！

【 骨の構成成分 】



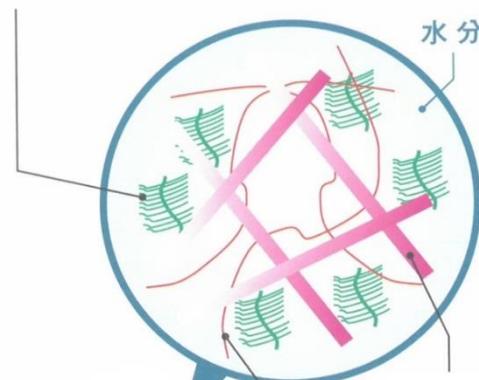
無機成分
主にリン酸カルシウム

有機成分
主にコラーゲン

水分

【 軟骨の構成成分 】

コンドロイチン硫酸など（弾力性）
グルコサミンを原料に作られる軟骨成分

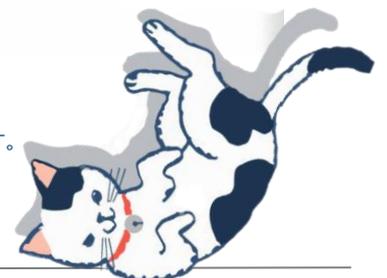


軟骨

コラーゲン（構造繊維）

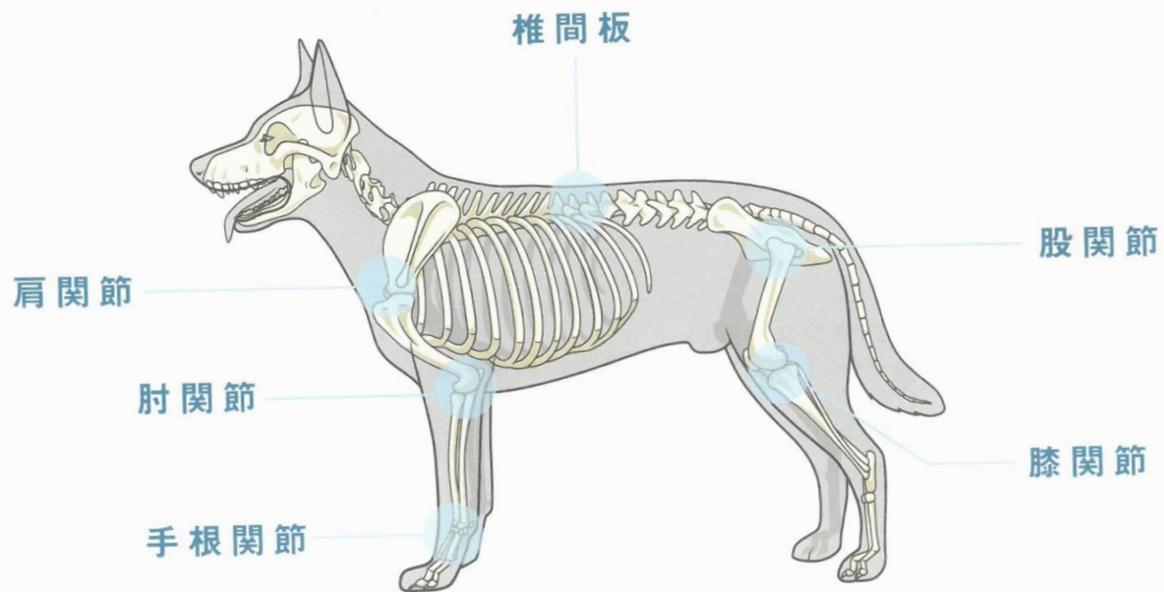
ヒアルロン酸（水分保持）
グルコサミンを原料に作られる軟骨成分

骨は主にカルシウム、リン、マグネシウム、コラーゲン、水分で構成されているのに対して、
軟骨は66.79%が水で、その他にコラーゲンやコンドロイチン、ヒアルロン酸で構成されています。
骨の連結部分は関節軟骨で覆われ、動きをスムーズにしたり、
衝撃から骨を守ったりするクッションの働きがあります。

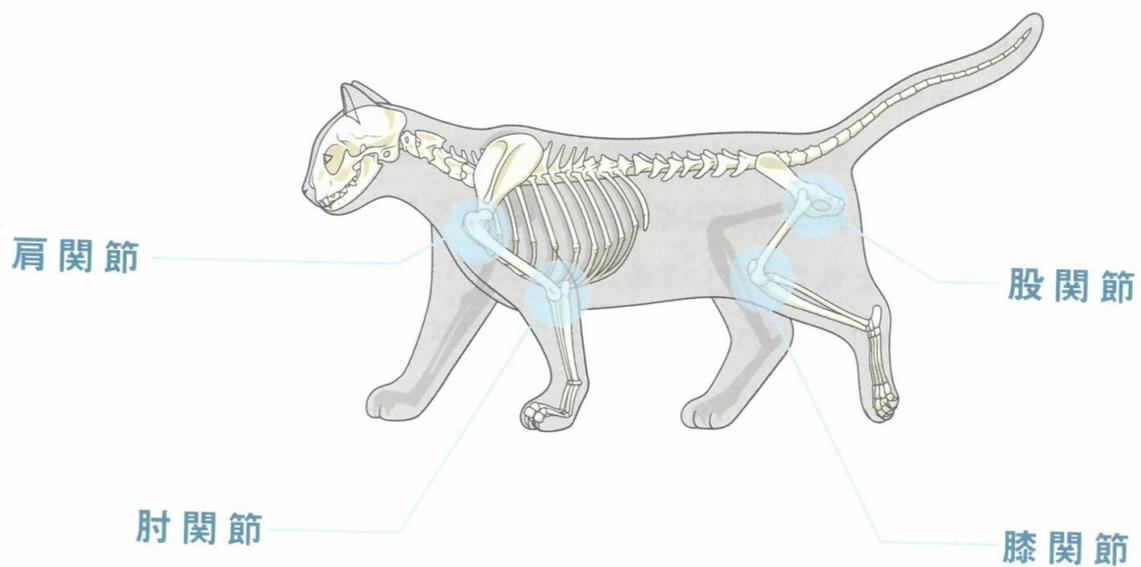


次に関節炎が **起こりやすい部位** をおさらいしましょう！！

【 骨関節炎の多発部位（犬） 】



【 骨関節炎の多発部位（猫） 】



【骨と関節の主な病気・原因・異常・症状】

主な骨と関節の病気	主な原因	異常	主な症状
① 骨の形成不全 (大型犬)	急激な成長	骨の形成異常	日常動作が困難 疼痛 跛行
② 関節炎	肥満、老化、損傷	関節にかかる 負担の増大	
③ 骨の形成異常	栄養バランスの 悪い食事	代謝に異常が 生じる	関節の肥大

上記に記した骨と関節の主な病気についてそれぞれの **栄養管理のポイント** を見ていきましょう！

①大型犬の成長期の
骨形成不全

大型犬の成長期間は
1年半～2年

小型犬や猫の成長期間は
約1年



成長期間は大型犬と小型犬・猫では大きな違いがあります。

この成長期間に骨や関節は体重を支えることのできる骨組を強化していきます。

そのためこの時期の急激な体重増加は骨の形成異常などを生じる原因となります。

一度形成異常を生じた骨は生涯その形をもとに戻す事はできないため、成長に伴い骨や関節にかかる負担が増加します。

よって、成長速度に合わせた栄養およびエネルギー構成でつくられた成長期用の総合栄養食、または療法食を与えて下さい。

大型犬の成長期用フードは急激な体重増加や成長を防ぎ、ゆっくりしっかりと成長できることを目的に栄養配合がされています。

(※タンパク質、脂質、カルシウム、リンそして代謝エネルギーが一般的な成長期用フードと比べて低く設定されています。)

②関節炎

骨には血管があり、栄養を常に供給されるため新陳代謝を繰り返してその恒常性を維持、または再構築が可能です。

一方で、軟骨には血管がなく、一度すり減ってしまうとその回復は困難です。

以上のことをふまえると、関節炎の症状の緩和および悪化の遅延に役立つとされている栄養素は次のような成分になります。



コンドロイチン硫酸、グルコサミン

- コンドロイチン硫酸：軟骨の破壊を抑制し、軟骨に水分を保つ働きがある
- グルコサミン：コンドロイチン硫酸を作るためのアミノ糖

※コンドロイチン硫酸およびグルコサミンの併用が関節軟膏の健康に役立つとされていますが獣医学的な証明はありません。

n-3系脂肪酸

EPA が炎症の軽減に役立ちます。

EPA は魚以外にも緑イ貝にも含まれ、そこにはコンドロイチン硫酸、グルコサミン、n-3系脂肪酸以外にもアミノ酸（グルタミン、メチオニン）や抗酸化成分（ビタミンE、C）、ミネラル（亜鉛、銅、マグネシウム）といった関節の健康に役立つその他の成分も含まれています。

抗酸化成分

骨膜細胞の損傷を減少するために、

ビタミンA、C、E、β-カロテン などの抗酸化成分が役立ちます



③骨や関節の 形成異常

注意すべきポイントをあげてみます。

肥満の管理

成長期に健康な骨組みがつくられても、それ以降の食事管理が悪ければいい状態を維持することはできません。さらに【肥満】になると骨や関節にかかる負担の増加が容易に想像できます。維持期や高齢期の肥満の主な原因は給与過剰とおやつとの与えすぎです。個体に適した一日あたりのエネルギー要求量（DER）、そして主食とおやつのバランスを見直すことが大切です。

過剰となる栄養素に注意

総合栄養食や療法食には犬や猫に必要な栄養素が十分に配合されているため不足よりも過剰を生じやすい現状があります。

手作り食においても注意が必要で、

例えば、リンが多く含まれる肉中心の手作り食ではカルシウムの不足が生じやすいですし、レバーはビタミンAを多く含むため関節炎や骨の異常などビタミンA過剰症を生じる可能性があります。大事なのは、どんな食べ物にどのような栄養素が含まれているかを把握することが過不足を避けるために必要になってきます。



ドライフードにはn-3系脂肪酸を追加した方が良い？

Q.n-3系脂肪酸（オメガ3系脂肪酸）は不足しやすいので、総合栄養食を与えていても、別途サプリメントで補った方が良い？

A.n-3系脂肪酸は、さまざまな健康に対する有益性が確認されていることから、注目が集まっている必須脂肪酸の1種です。

現在の主食、例えばドライフードの製造方法や原材料、保管状態によっては、

n-3系脂肪酸の必要量が損失している場合もあるため、必要に応じてサプリメントなど、別途オイルを補うことはおすすめです。

n-3系脂肪酸は熱だけでなく、酸化しやすい性質もありますので、極力空気に触れないよう、食べる直前にフードにかけたり、カプセルタイプのもので選択されるとより安心だと思います。

ただし、与えれば与えるほど良い、というわけではありませんので、

新鮮なものを適量与えることを推奨します。



● n-3系脂肪酸について知ろう

必須脂肪酸とは、多価不飽和脂肪酸である **n(オメガ)-6脂肪酸**と**n(オメガ)-3脂肪酸**

【n-6脂肪酸】

- ・リノール酸
- ・γ-リノレン酸
- ・アラキドン酸

【n-3脂肪酸】

- ・α-リノレン酸
- ・エイコサペンタエン酸 (EPA)
- ・ドコサヘキサエン酸 (DHA)



n-3脂肪酸を含む脂質の供給源と抗炎症作用

n-3脂肪酸の代表的な供給源として、亜麻仁油と魚油があります。亜麻仁油はα-リノレン酸で、魚油はEPA+DHAを多く含みます。ここでしっかり理解しておきたいのは、炎症反応のコントロールには「EPAから産生される生理活性物質*」が働くということです。α-リノレン酸は、肝臓においてEPAに変換されますが、その変換量は炎症を軽減できる量には至りません。また、肝機能の低下や体質的に脂質代謝が弱い場合、その変換率に影響を与えます。そのため、皮膚疾患などの炎症反応の治療においてはEPA+DHAを含む魚油が有益であることがわかっています。しかし、その効果はn-3脂肪酸単体で有益性を発揮できるわけではなく、n-6脂肪酸との配合が重要であることがわかっています。特に、n-3脂肪酸は化学構造上の性質から酸化されやすく、過剰摂取は過酸化脂質の発生によりDNAにダメージを与え、さまざまな病気の原因となります。

* **生理活性物質**：わずかな量で生き物の生理や行動に、何らかの特有な作用を示し、身体の働きを調整する役割を持った物質のこと。

必須脂肪酸とサプリメント

サプリメントは、不足を前提に使用するものですが、ペットフードには、コーン油、ひまわり油、キャノーラ油、動物性脂肪などn-6脂肪酸源となる食品が多いため、n-6脂肪酸が多く含まれています。

炎症性物質の産生量を調整するようにn-3脂肪酸が配合され、その配合量がラベルに記載されている場合は確認することもできますが、製造過程や保管状態により必要量が損失している可能性もあります。

また、炎症のコントロールを目的にn-3脂肪酸のサプリメントを使用したいものの、供給源である魚にアレルギー反応があり使用できないことがあります。

この場合は、同じくEPAやDHAを豊富に含む緑イ貝やクリルオイルの使用が可能です。

一方で、魚油のサプリメントは供給源である魚の種類が商品により異なるため、魚にアレルギーがある場合には製造会社への確認をします。

魚油の摂取量は、n-6脂肪酸の配合量に対して決定（炎症性疾患に関してはn-6:n-3=5:1~10:1が一般的）する方法のほか、犬ではEPA+DHAで体重1kgあたり50-60mg、あるいはEPAは体重1kgあたり40mg+DHAは25mgなどがあります。

最大許容量に関しては、米国学術研究会議（NRC）が上限を2,800mg/1000kcalと提示しています。

そのため、食事中の含有量も含めて過剰がない範囲で与え、目的とした効果が得られているのかどうかを観察しながら、必要に応じて投与量を調整するなどの使用方法が妥当だと考えます。

摂取後に嘔吐、軟便、下痢などを生じる場合には、いったん使用を中止します。

回復後、前回よりも少量で再度試し、それでも同様な症状を起こるのであれば使用しない、

または健康上の異常がないか動物病院に相談してみてもよいでしょう。



美しく健康で

長生きするために

絆プロジェクトとは

“動物が健康で美しく長生きするためにできること”をテーマに、動物とご家族が楽しく快適に過ごせますように、動物病院の立場から、動物と暮らすことの幸せを改めて感じてもらえるようなイベントを開催していくプロジェクトです。家族として迎え入れたその時から、生涯を全うするまでの、大切な時間をはつらつと笑顔に溢れる時間にして頂きたいと願っております。

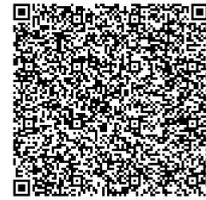
動物病院は病気やケガを治すためだけでなく、健康であり続けるための存在でもあります。

多くの方にとって動物病院に足を運ぶのが楽しいと思っていただけますと幸いです。

皆さまがどのような悩みを持たれているか、また同じような悩みを持つご家族さま同士が悩みを解決するためにコミュニケーションを取れるような場を作りたいと思っております。

～ 絆プロジェクト 第12回 活動報告 ～

「家族みんなでお祝いしよう！
LET's おうちパーティー」



↑おうちパーティー
特設ページはこちら

おこもり需要が高い昨今、年末年始は家族でおうちで過ごされた方が多いと思います。

クリスマスやお正月は特別ですよ！

ご自宅でも人間も動物も一緒に楽しめる方法として、

『LET's おうちパーティー』を提案し、特別な日をより盛り上げるアイテムを紹介しました。



▲わんちゃん用のクリスマスケーキとおせちをご紹介します。
無添加食品で見た目がとっても可愛い『はなとっぽ』さんの
クリスマスケーキとおせちを、ご自宅にお届けできるようにしました。



▲お正月はおしゃれをして記念写真を撮ろう！
晴着と袴がとても人気でした。



「家族みんなでお祝いしよう！

LET'sおうちパーティー」写真展

2月開催

家族の時間、一緒にお祝いするのは動物だって一緒。

たくさん愛されて、楽しい時を共に過ごした、特別な日のおうちパーティーの様子を送っていただきました。



～頂いたご家族さまの声～
次回は是非参加したいと
思いました。



～頂いたご家族さまの声～
とても可愛くて癒されまし
た！



～頂いたご家族さまの声～
どの子もかわいくて、そしてご
家族の暖かさが伝わる素敵なお
写真ばかりでした。心があた
まりました。
今度はぜひ参加したいです！



～頂いたご家族さまの声～
どの子も可愛く、素敵な表情してますね☺
〇〇と家族にとって貴重な時間を過ごしてきました。
また、違う形でのおもいでになります。



～頂いたご家族さまの声～
猫が少ない



～頂いたご家族さまの声～
コロナ禍でなかなか遠出ができない時に、このような企画に楽しく参加させていただきました。
機会があればまた参加したいと思います。



～頂いたご家族さまの声～
いいですね！



日本動物医療センター

LINE

公式アカウント

はじめました！

×

@025idbqn



予約フォームへのリンクやご家族様に有益な情報発信を
随時行っていく予定です。ぜひご登録ください！



JAMC

JAMCグループに
新たに原宿の医院が
加わりました！！



原宿犬猫クリニック

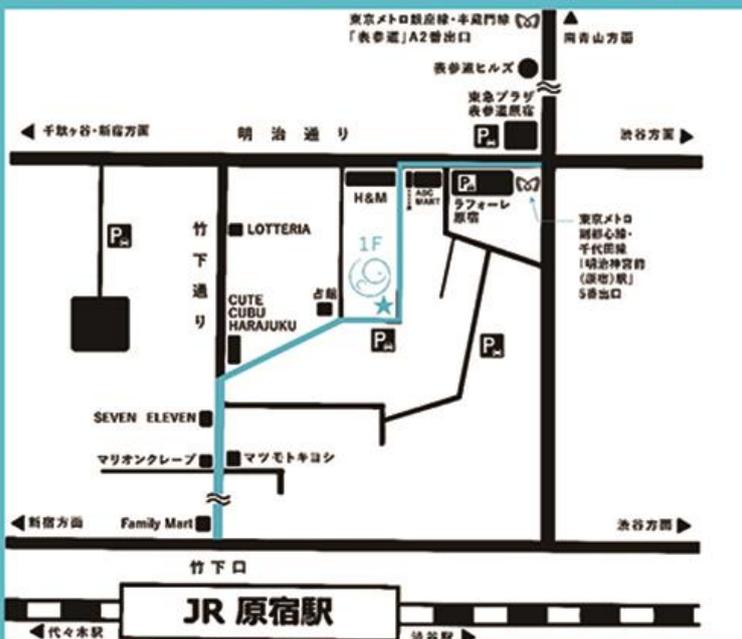
H A R A J U K U D O G & C A T C L I N I C



● 診療時間

	日	月	火	水	木	金	土
10:00-14:00	○	休診	○	○	○	○	○
16:00-19:00	○	休診	○	○	○	○	○

- 診療対象動物：犬・猫
- 専用駐車場はございません。近隣のパーキングをご利用ください。
- 初診のご予約はお電話で。以降は web からでもご予約可能です。
- オンライン診療受付
- English-speaking staff available
- 夜間救急はグループ本院（日本動物医療センター）までご連絡ください。



〒150-0001 渋谷区神宮前 1-8-20 サニー原宿 102

Tel : 03-3408-8612

mail : harajuku_dccl@jamc.co.jp



発行 | 株式会社 日本動物医療センター
発行所 | 〒151-0071 東京都渋谷区本町6-22-3

編集長 | 小池百恵
編集・構成 | 竹田祐子 梶優子 三品琴音 相澤菜野 諏方萌 クラナミ晃子 杉浦慧斗

診療時間のご案内

受付	9:00-13:00	14:00-16:00	16:00-20:00
	通常診療	○	/
予約診療	○	○	○

水曜日は午前診療のみ
入院中の面会・相談・容態の問い合わせ -----14:00 - 17:00

- 救急診療 24時間受付しております

救急診療のご案内



24時間365日夜間救急対応！

まずは **03-3378-3366** までお電話を！

当院では、常に獣医師と看護師が常勤しており、夜間の緊急時の診療も対応しています。

また、必要に応じて緊急手術や手術後の入院の受け入れも行っていきます。

- 来院時に迅速な対応ができるよう、お電話で症状をお知らせください。

(飼い主様と動物のお名前、動物種、年齢、性別、来院時間も併せてお聞かせください。)

- お問い合わせが集中しているときなど電話が繋がりにくい場合があります。

お手数ですが、しばらくたってからおかけ直してください。

- 緊急性や重症度の高い動物の対応を優先していますので、状態に応じて順番が前後してしまうことや待ち時間が長時間になることもありますのでご了承ください。

- 緊急時にはお預かりして、救命処置を進めさせていただくことがございます。

+

来院時に必要なもの



+

お支払に関して

各種クレジットカードまたは現金でのお支払対応も可能です。時間帯により、別途時間外料金が発生します。

+

動物健康保険に加入の場合

夜間診療時は、保険窓口清算対応しておりません。

飼い主様ご自身でのお手続きをお願いいたします。

当院へのアクセス

電車：京王新線『幡ヶ谷』北口をでて徒歩8分

バス：京王バス45番【新宿西口～中野駅】乗車

『本町一丁目』下車

車：首都高速4号新宿線 『初台』もしくは『幡ヶ谷』出口

